



一角仙人

早良河

是を天竺は羅刹國の帝王と
はしめし居りありて其國の
側小仙人方魔乃胎にまゐり
坐せし故より客小角所
生也なり是より其名を二
角仙人と号しありて子細有る龍

神と威を争ひ仙人祓通を以て
詔詔とくも岩やの由り
封しこゝ同救年雨を以て
沙の洪水を欲し流しを以て
もつかりし流しは富し船陀婦
人ともかあき義人のうけが
道にこそ迷ひたる旅人をも
導

やまふ入りの彼婦人よ
し祓通をうしあふ事も
もたけしあふ婦人をも
しより只今山姥は祓通
てを雲の客の跡を以て
くはれ旅人の夢をも破る
露時雨も山かけの下に
あふ

いそそ秋の夜までも寝て
ほろろ寝衣をきき雲
をけなつともあつた中
けうあもさ迷ふ道に
いそそ日びるゆくい
と寝いほともあつた路
わすれいく候まあし

いそそかりきりか
そ松の枝をむむいたる
候まかり候まかり
ら暫いかりに
いそそも同しやと
細かりあふまかり

せしときよくと金く人へ
かきすやう清くし
今からまふおのきを西見
ふ此菴の口やき事へ
不思議な定を九^{カラ}おとくし
て人偏通しぬ所ありうもい成
者そ是^{ツキ}き只山路にうき味いた

言人あらう日も漸言う前
ともして上夜に宿をけり人
おもしそ人同のまう有さ
所あらうくう人よ
おもし人のけりあふとぬ
き天候の極やこくはと海
人きま^{ツキ}人き取あう

蘇仙上云

我海濱^カ子^ニく^ニよ^ニま^ニる^ニ人^ニと^ニ深^ニあ^ニ

こ^ニり^ニそ^ニと^ニく^ニ一^ニ國^ニき^ニく^ニ立^ニち^ニる^ニ真^ニは^ニ

こ^ニと^ニり^ニの^ニか^ニ拍^ニ子^ニ有^ニ生^ニれ^ニほ^ニる^ニ小^ニ鹿^ニの^ニ角^ニれ^ニ

け^ニる^ニの^ニ肉^ニも^ニ仙^ニ人^ニと^ニ今^ニも^ニさ^ニる^ニ一^ニと^ニそ^ニ

か^ニも^ニあ^ニれ^ニ今^ニ日^ニに^ニち^ニる^ニ

一^ニ有^ニ承^ニ及^ニた^ニる^ニ一^ニ角^ニ仙^ニ人^ニと^ニは^ニ

し^ニま^ニる^ニ成^ニん^ニ一^ニ角^ニ仙^ニ人^ニと^ニく^ニ

作^ニお^ニり^ニん^ニく^ニひ^ニん^ニや^ニさ^ニし^ニの^ニ幸^ニ

乃^ニ誰^ニ人^ニと^ニか^ニる^ニも^ニう^ニけ^ニる^ニさ^ニだ^ニ

女^ニの^ニさ^ニら^ニか^ニけ^ニる^ニは^ニ黒^ニ髪^ニを^ニ洗^ニう^ニ夜^ニ

更^ニに^ニた^ニま^ニる^ニは^ニも^ニう^ニけ^ニる^ニ是^ニを^ニい^ニ

か^ニへ^ニる^ニは^ニあ^ニま^ニる^ニそ^ニの^ニま^ニる^ニも^ニ

一^ニと^ニう^ニけ^ニる^ニも^ニう^ニけ^ニる^ニも^ニう^ニけ^ニる^ニ

ほ^ニも^ニの^ニ髪^ニと^ニ酒^ニと^ニも^ニう^ニけ^ニる^ニ一^ニと^ニ

國名も人 ^{ミヤ} 名も ^{ミヤ} 名も

葉ととも ^{ミヤ} 花の露とあり ^{ミヤ} 名も

ふきく年を ^{ミヤ} 経ても ^{ミヤ} 不老の

此身 ^{ミヤ} 酒と ^{ミヤ} 用と ^{ミヤ} 事と ^{ミヤ}

試 ^{ミヤ} こと ^{ミヤ} 事 ^{ミヤ} あり ^{ミヤ} こと ^{ミヤ}

け ^{ミヤ} こと ^{ミヤ} 婦人 ^{ミヤ} を ^{ミヤ} 酌 ^{ミヤ} 小 ^{ミヤ} 立 ^{ミヤ} 人

酒 ^{ミヤ} び ^{ミヤ} も ^{ミヤ} じ ^{ミヤ} こと ^{ミヤ} 事 ^{ミヤ} と ^{ミヤ}

り ^{ミヤ} こと ^{ミヤ} 兎 ^{ミヤ} 高 ^{ミヤ} 小 ^{ミヤ} 人 ^{ミヤ} と ^{ミヤ}

月 ^{ミヤ} の ^{ミヤ} 面 ^{ミヤ} と ^{ミヤ} こと ^{ミヤ} 事 ^{ミヤ} と ^{ミヤ}

柳 ^{ミヤ} 袖 ^{ミヤ} 白 ^{ミヤ} 小 ^{ミヤ} 菊 ^{ミヤ} 花 ^{ミヤ} 露 ^{ミヤ} 打 ^{ミヤ} 拂 ^{ミヤ} 事 ^{ミヤ} と ^{ミヤ}

千 ^{ミヤ} 代 ^{ミヤ} 花 ^{ミヤ} 枝 ^{ミヤ} こと ^{ミヤ} 事 ^{ミヤ} と ^{ミヤ}

花 ^{ミヤ} 枝 ^{ミヤ} こと ^{ミヤ} 事 ^{ミヤ} と ^{ミヤ}

花 ^{ミヤ} 枝 ^{ミヤ} こと ^{ミヤ} 事 ^{ミヤ} と ^{ミヤ}

花 ^{ミヤ} 枝 ^{ミヤ} こと ^{ミヤ} 事 ^{ミヤ} と ^{ミヤ}

八
二
一
三
四
五
六
七
八
九
十

五

ス
コ
コ
ス
コ

卷八

角仙人人何小舟一をさ
 まて明の酒に酔ふて酒
 をうしあて天罰の醜の行を思
 い志を懲山風かゝ吹落てく
 ちかきさうりいへる屋とにたうり
 盤石四かまや
 諸龍の望みおそる

其時仙人杖と持きあきく利
 紐をひたり立む人も龍王を
 噴き乃ちちをたふし我身の
 けまのさきさうり一時
 心をちりふたれ仙人非通れ
 かもけきくさふ了よりたを
 礼を人龍王よりい雲をた

し雷電指毒天地まきくた
雨をうし洪水はしきき
波も死うけしきき波も死
うけはしきき又新官山をゆき

道明寺

早僧等

永

よきなりと名をすやくほけの
寺成し是を相模の四国代

とち双小尊系しや聖まそ我
答さんれやまに二六日未龍やうへ
是より河内四吐師寺へまきし新小
室母とそかりて下福よ今河内

回さすへと急こる切まてゝは
 し切かき世の中切とくまな
 旅衣きつふ山崎跡にみく
 方き白雲れ海いもき西いの
 夕日ふれ乃霧間よりあつ
 や河内あり吐師の里にも
 く二長月一の二也一も梢の枝をえて
三

照や河内いの里いに
 てもねいのり時雨いは
 ちる方へ此里の名をもち寺に佛
 神子いはい者い也い有難いや利生いはいふ
 くねほいもいといわきくちいも
 きき天照神の宮寺に歩をいていふ
 けちくいるい身いといまい心いがいきいわいるい

戦^ハい^ハや^ハい^ハり^ハや^ハあ^ハを^ハは^ハさ^ハん^ハく^ハ

神^ハさ^ハす^ハね^ハを^ハ十^ハ代^ハ子^ハ世^ハの^ハね^ハく^ハ霜^ハは^ハ

か^ハさ^ハひ^ハく^ハ一^ハ草^ハれ^ハ露^ハの^ハ力^ハあ^ハう^ハな^ハま^ハ

て^ハ神^ハふ^ハ終^ハく^ハち^ハり^ハる^ハ宮^ハ洛^ハ久^ハし^ハ手^ハ端^ハ離^ハ

の^ハう^ハま^ハち^ハり^ハひ^ハや^ハあ^ハれ^ハも^ハー^ハや^ハく^ハ

い^ハふ^ハ是^ハあ^ハる^ハ文^ハ人^ハ子^ハ寺^ハ人^ハま^ハう^ハり^ハひ^ハ

こ^ハあ^ハる^ハの^ハト^ハに^ハく^ハト^ハう^ハ何^ハ事^ハに^ハく^ハ何^ハそ^ハ

是^ハも^ハ善^ハう^ハ寺^ハ如^ハま^ハの^ハの^ハ夢^ハあ^ハら^ハう^ハた^ハら^ハ

く^ハ尚^ハ寺^ハ人^ハま^ハり^ハあ^ハう^ハ寺^ハ中^ハ人^ハく^ハふ^ハあ^ハひ^ハ

中^ハの^ハ夢^ハ想^ハる^ハや^ハを^ハか^ハう^ハう^ハや^ハあ^ハト^ハ

つ^ハま^ハり^ハト^ハと^ハ承^ハけ^ハ物^ハあ^ハら^ハう^ハは^ハ多^ハ夢^ハ

や^ハを^ハし^ハ老^ハ人^ハお^ハび^ハ極^ハ終^ハく^ハ果^ハ承^ハう^ハく^ハ

寺^ハ中^ハ人^ハ弘^ハの^ハひ^ハし^ハつ^ハま^ハり^ハや^ハは^ハ

なまはら

ト

因代とす所ふさ系とす聖とくか
我念佛性生れとす有により此経を
寺の如來一七日未龍やて人を教の
師夢起ふ如來がけられんをいふ
香の衣に香れけりけりては僧
乃新あらはるるは念佛性生れ
とす誠ふ念はれども又其の河に回

吐師寺を天神の所在所は此小
神明を初め奉りて七社乃神
を初めやとあり又天神の一切衆
生現る二世の爲に又都大衆經を
云供養しとありとありと軸あり
とありとありとありとありとあり
とありとありとありとありとあり
とありとありとありとありとあり

あふ生るゝにありきや
 とも夢見ぬあはれ有り難
 想ふゝにありきや
 少くも寺中のくまにありき
 中へ又今承けしき
 みをしるゝにありき
 所へしるゝにありき
 神代は是れ小神明と

ちりやう。七はう神と初穂
されふ。又ひかりる。天祚しく
ト。母も小み。それそく。そ
木槌樹。く。い。海をもよ。新
こく。有^{マキ}名。祚を仏も同所。い。さ
王外同意の歩結縁今。き。く
承。ふ。い。重の作。か。今。ふ

7/3
n
q
9
J
J
J

ワキ

ワキ

天

ウキ

7

何子

内卷下九

内

八

五

10

7

レテサレ上

卷之四

二
一
寺
上
之

小へおと山もさびひつて 早ね
 里に後宮ありく。夕のすむも
 ととのふく末代ちくのけしき今にた
 うりあ かくくもまねぬ
 氏も紫の露も。うすくはるり
 君の重客の精をいりも。さび
 て。今見うけよ。あはれつるも

いさう来あき。物もいふふき
せり。わ族つや。名にむすけ
とそ。あはれ。ふいふ。回。ま。
せ。い。ふ。き。と。林。府。橋。の。り。
親。多。くの。み。し。月。首。に。い。ち。ち。
お。う。ま。ね。を。た。け。し。や。あ。め。し。め。
家。か。く。二。四。月。落。れ。け。百。病。

万事の皆多し
ことごとく
いふこと
いふこと

胡とふらう
ことごとく
いふこと
いふこと

小顔ふらう
ことごとく
いふこと
いふこと

お顔を
ことごとく
いふこと
いふこと

わらふそ
ことごとく
いふこと
いふこと

しむまふ
ことごとく
いふこと
いふこと

ふれ
ことごとく
いふこと
いふこと

佛のこい
ことごとく
いふこと
いふこと

枯ち
ことごとく
いふこと
いふこと

う
ことごとく
いふこと
いふこと

花ふに
ことごとく
いふこと
いふこと

こつ
ことごとく
いふこと
いふこと

とあ
ことごとく
いふこと
いふこと

や
ことごとく
いふこと
いふこと

珠^{たま}ね^ねの^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 と^との^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 非^ひつ^つば^ば使^し名^なを^をあ^あれ^れと^とう^う白^{しろ}き^きの^の衣^え
 と^との^の霜^{しも}草^{くさ}の^の露^{つゆ}ア^アリ^リと^とう^うや^や霜^{しも}
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 て^てこ^この^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは

今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは
 今^{いま}の^のう^うの^のあ^あの^の授^{おづ}け^けは

き 笏 柏子 ぬ 侵 ^レ 色 去 ^リ 以 ^テ 白 大 更

作はくくともてな名ふふ亭

た吏の星霜はむ身の浅き

中
流
之
石
也
其
石
之
大
也
如
此
其
石
之
小
也
如
此
其
石
之
中
也
如
此
其
石
之
外
也
如
此
其
石
之
內
也
如
此
其
石
之
上
也
如
此
其
石
之
下
也
如
此
其
石
之
左
也
如
此
其
石
之
右
也
其
石
之
中
也
如
此
其
石
之
外
也
如
此
其
石
之
內
也
如
此
其
石
之
上
也
如
此
其
石
之
下
也
如
此
其
石
之
左
也
如
此
其
石
之
右
也

ナニカ
いふ
は
て
後
と
あ
ひ
誓
あ
り

相を許さずして少くも其に便に

庭火のふけや

あけ乃五垣
いさ中にく
白来

油よりなるとして、
や笏拍子うごくとき打もず

い、
先、
乃、
彼、
の、
君、
を、
白、
土、
受、
く、
ま、
と、
ま、
め、
の、
笏、
拍、
子、

面
樂
今
事
曲
要

[illegible][illegible]

一
 二
 三
 四
 五
 六
 七
 八
 九
 十
 十一
 十二
 十三
 十四
 十五
 十六
 十七
 十八
 十九
 二十
 二十一
 二十二
 二十三
 二十四
 二十五
 二十六
 二十七
 二十八
 二十九
 三十
 三十一
 三十二
 三十三
 三十四
 三十五
 三十六
 三十七
 三十八
 三十九
 四十
 四十一
 四十二
 四十三
 四十四
 四十五
 四十六
 四十七
 四十八
 四十九
 五十
 五十一
 五十二
 五十三
 五十四
 五十五
 五十六
 五十七
 五十八
 五十九
 六十
 六十一
 六十二
 六十三
 六十四
 六十五
 六十六
 六十七
 六十八
 六十九
 七十
 七十一
 七十二
 七十三
 七十四
 七十五
 七十六
 七十七
 七十八
 七十九
 八十
 八十一
 八十二
 八十三
 八十四
 八十五
 八十六
 八十七
 八十八
 八十九
 九十
 九十一
 九十二
 九十三
 九十四
 九十五
 九十六
 九十七
 九十八
 九十九
 一百

す福き女に老臣を類レ万歳樂に

三
大
十
二
三

同音上、
惠遠禪師の事なり。明
縁起心つらにありては、
あきらめたるに二十世
界へ眼を十二
瀑布を
石橋を心静
事にて候そ。
者へ是僧ありては、

五、中々さるに、以明 楓、瀑布
 六、事々、以明 謂る方々
 七、以明 事々、以明 萬仞名と
 八、以明 得く瀑布と云、以明 日香炉と照
 九、以明 紫煙とある、以明 遠くをさへ織り
 十、以明 ことごとく、以明 寶又と
 十一、以明 事々、以明 量り計り

ふやうとあふあふたふとくといひ泥
ふやうとあふと若むと橋と弱きと
ふやうとあふと若むと橋と弱きと
ふやうとあふと若むと橋と弱きと
ふやうとあふと若むと橋と弱きと
ふやうとあふと若むと橋と弱きと
ふやうとあふと若むと橋と弱きと
ふやうとあふと若むと橋と弱きと
ふやうとあふと若むと橋と弱きと
ふやうとあふと若むと橋と弱きと

放下僧

ツ河

是も下野回の何人、真本のた遣
何果り子ふ、小法師とや者ほへん
おと親ふく、作者を相模回
何人となの信後とやものたふ
おと親ふく、作者を相模回
何人となの信後とやものたふ
おと親ふく、作者を相模回
何人となの信後とやものたふ
おと親ふく、作者を相模回
何人となの信後とやものたふ

才あつてふたつ山行にたふさ
ふあふ父兄にくわ者ふもとい
きりあう所きすにわ行にま
此事と後合をともやめいふ
このうち案内にわ^{ニ倍}ふ
つとつわ^ニふ^ニ即ちい
つとつ^ニい^ニり入る

唯今、何のきあふてい^ニ唯
とあふ^ニ余の義にわ^ニ吾^ニ親
の敵の事、(四)ふをひく^ニこれ
あ^ニわ^ニふ^ニい^ニふ^ニて^ニい^ニふ
や^ニめ^ニ此^ニ後^ニ合^ニふ^ニき^ニあ^ニふ
ア^ニく^ニト^ニ実^ニに^ニ作^ニの^ニて^ニわ^ニめ^ニ
り親^ニの^ニ敵^ニの^ニル^ニふ^ニあ^ニく^ニわ^ニめ^ニ

の敵と討て孝も備りてよく謂れい

と要虎にくれ。敵城をんとと。

百日虎の野馬ふ出て秘ふ夢
 言に尾上乃ねのまふれは虎に似
 ふ大石の者い敵虎と心得は
 つふ矢あやふふくさあふも

矣即いふはふきと血縁をきと
 了て承つて人只思ふ所多く曹
 ききいふと承つておぼしむの如く
 立ふもふくんと相敬者ふ行て
 迎げきふき今時人れ散ひ
 物に放つてふくむ教下ふ出てふ
 ふくふふ思ひふふふふふ

いふくふふとふふ立修行の道
 に趣けし我もふふふふふ
 門教下のふふふふふ
 ふふふふふふふふふふふ
 古来の名残もふふふふふ
 郭西ふふふふふふふふふ
 兄弟ふふふふふふふふふ

同音上

早男

旗本傳

わがこととて少神垣やぐ屋さく

世に言ふまじ 是を相模國の侵入

と称の信後とて者ほく此國お

けき夢とてくく新ふ新ふ

乃瀬戸れ之鴻(余指)ひくに和く有

国前ふ瀬戸れ之鴻(船)の事とて

久み果る名字りてか畏ていふ面白

のわきう分野やお僧俗二りの名

とてなれて法とももよりのほか

所と共うまひとてれと畏

持来るやときをとててあふ

まよふて落れ一葉の春を

以白雲西山ふ蓋より清めし

あふの秋ふて紅葉とて

文政十三年

子^こも^もと^とや^や朝^{あさ}の^の夜^よの^の雨^{あめ}く

く^く又^{また}あ^あの^のひ^ひー^ーと^とい^いぶ^ぶの^の露^{つゆ}

の^の村^{むら}時^{とき}雨^{あめ}定^{さだ}め^めき^き世^よふ^ふ古^{ふる}の^の水^{みづ}ぬ^ぬ

き^きと^と吾^{われ}い^いた^た人^{ひと}を^をあ^あら^らや^や思^{おも}ふ^ふん

く^く是^{こゝろ}を^を浮^う雲^{うん}流^{りゅう}の^のと^とも^も都^と下^か

も^もく^くと^と史^しめ^めつ^つい^いら^らる^るま^まま^まの^の珠^{たま}

教^{きょう}と^と手^てふ^ふ海^{かい}と^とひ^ひ君^{きみ}屋^や二^に所^{しよ}の^の衣^えと

き^き罪^{つみ}漳^{しょう}懺^{ざん}悔^{かい}の^の袈^け裟^さ衣^いと^とを^をう^うる^るは

こ^こう^う僧^{そう}と^とい^いや^やと^とい^いれ^れ遠^{とほ}く^くの^の振^ふ舞^{まい}

心^{こころ}と^とい^いれ^れ又^{また}手^て校^{がう}小^{せう}團^{だん}扇^{せん}と^とう^うく^く持^{もち}

こ^こう^う團^{だん}扇^{せん}の^の一^{いつ}句^く形^{がた}なり^{なり}と^とい^いれ^れ史^し園^{えん}

扇^{せん}と^とい^いれ^れ動^{どう}時^{とき}を^を流^{りゅう}れ^れと^とい^いれ^れと^とい^いれ^れと^とい^いれ^れ

れ^れ時^{とき}を^を名^な月^{げつ}と^とい^いれ^れと^とい^いれ^れと^とい^いれ^れと^とい^いれ^れ

日^{にっ}生^{しょう}諸^{しよ}法^{ぽう}を^をう^うる^る所^{しよ}と^とい^いれ^れと^とい^いれ^れと^とい^いれ^れ

又^{また}手^て校^{がう}小^{せう}團^{だん}扇^{せん}と^とい^いれ^れと^とい^いれ^れと^とい^いれ^れ

修^ニり^ニの^ニ有^ニ存^ニあ^ニれ^ニば^ニい^ニの^ニを^ニ
道^ニ理^ニ也^ニと^ニい^ニふ^ニ者^ニは^ニあ^ニる^ニを^ニな^ニる^ニあ^ニる^ニ

團^ニ扇^ニの^ニ一^ニ句^ニを^ニし^ニて^ニい^ニふ^ニと^ニ今^ニス^ニハ^ニラ^ニ
箭^ニを^ニ帶^ニし^ニて^ニい^ニふ^ニと^ニ箭^ニを^ニし^ニて^ニ僧^ニの^ニ
道^ニを^ニし^ニて^ニい^ニふ^ニと^ニ本^ニ末^ニに^ニも^ニ
れ^ニ形^ニを^ニ影^ニし^ニて^ニ定^ニ惠^ニの^ニ二^ニの^ニ秘^ニ法^ニを^ニ
い^ニふ^ニと^ニい^ニふ^ニと^ニ法^ニ明^ニ王^ニを^ニし^ニて^ニ法^ニ通^ニの^ニら

に^ニ智^ニ惠^ニの^ニ矢^ニを^ニし^ニて^ニい^ニふ^ニと^ニ法^ニ明^ニ王^ニを^ニし^ニて^ニ法^ニ通^ニの^ニら
を^ニ破^ニり^ニて^ニい^ニふ^ニと^ニ法^ニ明^ニ王^ニを^ニし^ニて^ニ法^ニ通^ニの^ニら
持^ニく^ニに^ニい^ニふ^ニと^ニ法^ニ明^ニ王^ニを^ニし^ニて^ニ法^ニ通^ニの^ニら
わ^ニく^ニに^ニい^ニふ^ニと^ニ法^ニ明^ニ王^ニを^ニし^ニて^ニ法^ニ通^ニの^ニら
う^ニに^ニ讀^ニみ^ニも^ニあ^ニる^ニと^ニい^ニふ^ニと^ニ法^ニ明^ニ王^ニを^ニし^ニて^ニ法^ニ通^ニの^ニら
あ^ニる^ニと^ニい^ニふ^ニと^ニ法^ニ明^ニ王^ニを^ニし^ニて^ニ法^ニ通^ニの^ニら
教^ニ下^ニ僧^ニと^ニい^ニふ^ニと^ニ法^ニ明^ニ王^ニを^ニし^ニて^ニ法^ニ通^ニの^ニら

を^ニれ^ニ祖^ニ師^ニ禪^ニ佛^ニを^ニ行^ニと^ニい^ニふ^ニと^ニ法^ニ明^ニ王^ニを^ニし^ニて^ニ法^ニ通^ニの^ニら

於下位土に

宗神の承度^{ニテ} 秋^{ニテ}の宗神^{ニテ}

ヤを教外別傳^{ニテ}小^{ニテ}してい^{ニテ}る^{ニテ}を^{ニテ}見^{ニテ}

る^{ニテ}を^{ニテ}説^{ニテ}き^{ニテ}次^{ニテ}又^{ニテ}字^{ニテ}と^{ニテ}き^{ニテ}の^{ニテ}事^{ニテ}を^{ニテ}行^{ニテ}

ふ^{ニテ}所^{ニテ}又^{ニテ}字^{ニテ}と^{ニテ}き^{ニテ}を^{ニテ}し^{ニテ}宗^{ニテ}神^{ニテ}を^{ニテ}言^{ニテ}く^{ニテ}

や^{ニテ}一^{ニテ}葉^{ニテ}の^{ニテ}翻^{ニテ}れ^{ニテ}ば^{ニテ}の^{ニテ}行^{ニテ}傳^{ニテ}と^{ニテ}し^{ニテ}

ま^{ニテ}よ^{ニテ} 妙^{ニテ}度^{ニテ}禪^{ニテ}の^{ニテ}こ^{ニテ}ろ^{ニテ}わ^{ニテ}ん^{ニテ}行^{ニテ}と^{ニテ}受^{ニテ}

取^{ニテ}ま^{ニテ} 入^{ニテ}く^{ニテ}き^{ニテ}い^{ニテ}く^{ニテ}し^{ニテ}の^{ニテ}う^{ニテ}こ^{ニテ}た^{ニテ}

て^{ニテ}の^{ニテ}い^{ニテ}づ^{ニテ}て^{ニテ}ハ^{ニテ}三^{ニテ}昧^{ニテ}の^{ニテ}い^{ニテ}ふ^{ニテ}勝^{ニテ}よ^{ニテ}

自^{ニテ}心^{ニテ}自^{ニテ}佛^{ニテ}を^{ニテ}お^{ニテ}い^{ニテ}ふ^{ニテ} 白^{ニテ}雲^{ニテ}や^{ニテ}ま^{ニテ}

可^{ニテ}ふ^{ニテ}き^{ニテ}龍^{ニテ}と^{ニテ}も^{ニテ} 生^{ニテ}死^{ニテ}ふ^{ニテ}何^{ニテ}ま^{ニテ}ハ^{ニテ}

可^{ニテ}し^{ニテ}あ^{ニテ}の^{ニテ}苦^{ニテ} 生^{ニテ}死^{ニテ}と^{ニテ}離^{ニテ}ま^{ニテ}ハ^{ニテ} 可^{ニテ}し^{ニテ}

々^{ニテ}の^{ニテ}ま^{ニテ}ろ^{ニテ} 可^{ニテ}ま^{ニテ}く^{ニテ} 向^{ニテ}上^{ニテ}の^{ニテ}二^{ニテ}河^{ニテ}を^{ニテ}

可^{ニテ}し^{ニテ}と^{ニテ}し^{ニテ}と^{ニテ}し^{ニテ}と^{ニテ}い^{ニテ} 可^{ニテ}切^{ニテ}く^{ニテ}さ^{ニテ}し^{ニテ}

可^{ニテ}し^{ニテ}と^{ニテ}あ^{ニテ}い^{ニテ}と^{ニテ}あ^{ニテ} 可^{ニテ}ろ^{ニテ}禪^{ニテ}法^{ニテ}の^{ニテ}言^{ニテ}禁^{ニテ}

文に書か

日
 あをたにさき有てたうあし
 何とぞアふいもの山にい
 けし色まきつて南を三寶を
 うの人うやさわもふ乃
 こしきまきつて持戒破戒を撰ん
 有きの二回ふたう事あく皆成仏
 疑ありさわも学あもみふ後

何ゆゑと顯し物へもりけを
 知あるもやと顯もり音湯れ
 春のもうにき谷の戸いり字
 うごほもあもてけ初く害け
 れあつういふにぢやより蛙つ
 色あそこの有もれとふふ秋
 とれ小田秋の葉うより古郷の

田のふとる鷹啼くあいの
 雲のたしれはさといふ小男磨の
 ちもむ月とふそいひとま
 おねの有由良の湊のけり
 ち莫とえそ人ともは是と
 りを中時そこのあしやあ
 ち之つり朝はともあこれ

三界唯心の理ありと覺るごと
 へはくや凡小何れもは雲のな
 と名成ぬこもろれ花の
 都や筆小書とも及し東の
 祇園はちちある親のきつ乃
 ちしに地王の梯に散し西を
 倫議滅乃所寺はもる如き

奇ノ
章十キ
ハふ
言

ふ。ぬ。の。輪。の。井。を。き。く。れ。り。あ。る。に。
柳。ハ。水。小。し。も。し。ぬ。了。花。を。竹。小。
し。ゆ。れ。野。邊。の。り。き。を。ゆ。ふ。し。
ま。あ。都。の。し。さ。ゆ。ふ。し。ゆ。し。
茶。麩。は。し。あ。て。も。ゆ。れ。き。ま。ふ。と。
高。き。り。と。よ。こ。き。り。を。教。下。に。
ま。あ。ふ。り。これ。二。り。の。竹。れ。き。と。

天止

か。さ。の。く。わ。活。り。き。も。バ。代。の。井。
い。の。ゆ。て。か。く。わ。る。子。と。と。い。
た。ふ。ゆ。き。は。き。く。此。年。月。の。恨。乃。
ま。ま。今。こ。う。と。な。れ。お。い。の。ま。に。敵。
と。討。さ。け。れ。か。つ。て。足。才。會。
づ。く。う。の。胡。の。あり。て。き。ら。ま。ら。に。
親。の。か。い。き。と。討。事。も。な。り。き。ま。

下等工品
しふより名分未付にとあり

予月

予月

是と信濃國の住人安田の庄司
を治の沙門より小澤刑部を
房と者多くしおとれは安田
といふや月や口論いあり
くうふたあひてひ某を都にそ
け事くと承と目小けきいそ

何處も沙汰なく果ては神守
福小幸國へも叶ひあふさういと
焚うふまは道に回守山の宿申屋の
あゝとみ成く作きひ人乃
御とくくわくはやく使トさ
またとぬみみ岐つるまは鳥宿も
くさう度はくぬくは非

是は信濃國の信人出の度同友信
とだし人ぬ妻や子小くはくぬ
さくもはくみ友信の月のはま
ふあへあきふれたまはまは
かりしはれも皆ちりく小成だのむ
本張もあきしこの花あ独く
しとくとかさういりねたうあ

しりよ思ひ子といふいふあふ
 ぼくと定めね様は信法路や
 月と夜珠の夢はうりく名は
 さふ古ふれ清回の煙うらまは草
 れれの方やあふ様は床れうま
 御守山の宿よ思ふくく御意
 初まきいやは近に御守山の宿よ思ふ

此よ宿よりうらま思ひふいふ
 常より誰そいふは是は旅人
 丁一夜の宿よりく心はうらま
 何くらう行方いふふは是は信法
 よりおのり者ふは是は痛りや
 上臈めいふてあふき人い付は
 くはにふくはをうらま思ふ

あつては、いふに、使ふ、手、と、た、く、そ、
今、更、今、か、き、さ、思、ひ、山、さ、て、夜、
う、く、ほ、あ、今、さ、行、ま、お、人、
れ、く、無、い、さ、れ、と、お、む、情、と、是、
あ、や、ま、さ、え、し、あ、我、く、非、く、
歸、く、娘、さ、さ、さ、と、ど、く、さ、れ、
さ、振、と、お、り、さ、し、是、を、信、濃、國、の、

は、今、月、の、秋、長、と、い、抄、る、也、何、に、
あ、つ、の、安、田、の、庄、司、あ、は、と、口、論、し、あ、
あ、を、あ、は、と、討、く、ひ、び、の、云、方、さ、し、
ち、ん、ま、う、し、の、者、や、あ、な、さ、
ま、う、本、領、悉、な、さ、さ、れ、と、い、び、な、
を、京、は、よ、き、縁、と、い、て、や、ひ、さ、
作、(一)平、領、悉、さ、う、ト、さ、安、堵、の、故、

書といふも口今も國にお下り急
 此後子是へるや也に國守に客ある
 といふに部有然るき前客
 といふ又其の字つやが^{ニテ}は
 て海^{ニテ}の安^{ニテ}なる客ある
 するや^{ニテ}の安^{ニテ}なる客ある
 といひては名をいへるや^{ニテ}は

さういふや^{ニテ}の安^{ニテ}なる客ある
 此後名をいへるや^{ニテ}は
 言はるる安^{ニテ}なる客ある
 此親の敵を月^{ニテ}の安^{ニテ}なる客ある
 言はるる安^{ニテ}なる客ある
 うきや^{ニテ}の安^{ニテ}なる客ある
 月の安^{ニテ}なる客ある

ふく^ニい^ニに^ニは^ニ是^ニい^ニ金^ニの^ニ
り^ニあ^ニの^ニ目^ニを^ニ及^ニに^ニ上^ニ向^ニあ^ニの^ニら^ニ酒^ニ
と^ニお^ニく^ニあ^ニう^ニて^ニの^ニ我^ニく^ニき^ニあ^ニう^ニま^ニい^ニや^ニ
へ^ニ出^ニ也^ニ此^ニ終^ニと^ニや^ニて^ニの^ニさ^ニ唯^ニ
か^ニう^ニひ^ニの^ニ群^ニい^ニう^ニか^ニう^ニ人^ニあ^ニて^ニさ^ニ
か^ニん^ニい^ニけ^ニあ^ニう^ニれ^ニあ^ニう^ニて^ニさ^ニあ^ニて^ニの^ニ
う^ニか^ニう^ニの^ニは^ニ核^ニ人^ニの^ニは^ニ是^ニれ^ニ河^ニを^ニ流^ニ

を^ニ誑^ニひ^ニよ^ニか^ニう^ニの^ニ一^ニ所^ニを^ニさ^ニ
き^ニく^ニ要^ニて^ニい^ニう^ニに^ニよ^ニは^ニ是^ニれ^ニの^ニ所^ニに^ニ
に^ニ方^ニれ^ニの^ニ所^ニを^ニ中^ニの^ニ所^ニに^ニあ^ニて^ニ南^ニ白^ニと^ニ
る^ニと^ニ一^ニう^ニに^ニ誑^ニひ^ニく^ニ一^ニ万^ニ箱^ニを^ニ親^ニに^ニ
敵^ニと^ニ討^ニつ^ニる^ニ所^ニに^ニ誑^ニひ^ニく^ニ一^ニ所^ニを^ニ親^ニに^ニ
う^ニあ^ニう^ニて^ニい^ニう^ニて^ニく^ニ一^ニ所^ニを^ニ親^ニに^ニ
印^ニれ^ニう^ニら^ニあ^ニて^ニ群^ニ諸^ニ鳥^ニよ^ニと^ニく^ニ一^ニ所^ニを^ニ親^ニに^ニ

だやゆふにふれいさるる
 て頭をちねとさしとせ見
 一、万是とす^ままのあし
 事う佛を^ま不動と敵と
 うとせとさるるや佛をくは
 し、ま、い、と、ゆ、い、ち、る、力、と、さ、た、し、
 けりや行く南を佛敵とさるるま

かいと討^ちつ 皆何とせらるるぞ

うふとらるるさうふよのさや
 依^よけいふらるるさうふよのさや
 されき者さるるまんと
 せらるることおひらう^まの急うら
 又さうさ行とほいそ 柳子と
 ちと^ま目を^ま一^まさるるまんと

ろく後柳子あてあえとく 武の柳

子あてあえとくあえとくあえとくあえとく

てあてあえとくあえとくあえとくあえとく

早とくあえとくあえとくあえとくあえとく

又級部部月雪柳子あれ旋いのと

あてあえとくあえとくあえとくあえとく

面白さくあてとくあてとくあてとくあてとく

もいづとくあてとくあてとくあてとくあてとく

中もあてとくあてとくあてとくあてとくあてとく

ねいづとくあてとくあてとくあてとくあてとく

てあてとくあてとくあてとくあてとくあてとく

氣もあてとくあてとくあてとくあてとくあてとく

はあてとくあてとくあてとくあてとくあてとく

川かの討安田底司をほろろと

花より枝より

五月十五日

又意うまとし

士

そはあまのこはねふれをなむ

アききやふはの形ア友房よ

わくわくやとひそきくけを

ひききやふはの形ア友房よ

はあさつそは年月の恨のす

今こそうせらふ月よきく思

敵とうのきりきり思ふ

こけぬきくくさくさ

歸りけりけりけりけり

はあさつそは年月の恨のす

今こそうせらふ月よきく思

敵とうのきりきり思ふ

こけぬきくくさくさ

下係之音曲先年百番雖令

板門也龍謡救番因有脫落之

近願亦入亦後自番令用板者也

章句声付

不順味意所可有

從之學士有效受南都伯改正之

貞享三曆丙寅

京都

吉田德共清満正

西森六郎春

江戸次原辰兵衛春

霜月者目

